

企画
部会

〜ご命日に聞くと〜

お寺さんと話すとパパを近くに
感じてあったかく思う

妃香里ちゃん(20歳)のお父さんは、彼女が中3の秋、10月29日に43歳で亡くなった。がんだった。

義盛 ひかりちゃん、住職から聞いたよ。夏に結婚したんだってね。びっくりしたわ。おめでどう。

ひかり ありがとうございます。夏にパパの7回忌で二人で報告しました。小さい頃に亡くなったママの実家にも行って報告してきました。

義盛 そうかそうか。

今日はお父さんの話を聞かせてもらうけど、答えたくない時は答えたくないって言うっていいからね。

ひかり はい、大丈夫です。

義盛 お父さんはがんで亡くなったんだよね。

ひかり パパは体がだるくてずっと仕事にも行っていなく

て、朝からお酒を飲む感じでした。病院にも行っていなくて。

義盛 全然病院行ってなかったの？

ひかり 行ってなかったです、全く。亡くなる前の日の夕方にお風呂に入って、ずっと伸び放題だった髪とひげをきれいにしてた。きつと自分が死ぬってわかってたんだと思う。

腹水たままって息もつらそう、ようやく病院行っただけです。幻覚も見えてたみたいだし。

義盛 よく我慢してたね。

ひかり すごくですよ。お医者さんも「よくここまで我慢してましたね」って言ってました。

その日の夜は、パパのお葬式の夢見たり、もう涙が

止まらなかった。

義盛 うんうん。

ひかり 次の日の29日に病院へ行って、お医者さんに肝臓のエコー見せられたけど、硬くて小さくて肝臓に見えなかった。「もって3日」って言われたけど、ばあちゃんに勘違いしたみたいで、この3日を楽しんでいたら大丈夫って思ったみたい。私はすぐ理解できたから、泣いて病室に入れなかった。泣いてる姿見せちゃだめだなと思う。

義盛 ひかりちゃん大丈夫？

ひかり 大丈夫です。

夜に、寝ているパパの口元から腹水とか血とかが出てくるから、ばあちゃん二人でふいてあげてた。

22時くらいに、パパの心音がおかしくなって、お医者さんが心臓マッサージしてくれてた時に、来られなかった札幌のおばちゃんが電話で「頑張れ」って言った

ら、少し持ち直したんです。でもその後だめで、亡くなる時にパパ右目から涙流していました。それは今でもすごい覚えています。

義盛 お葬式はつらかった？

ひかり お葬式では泣かなかった

な。なんか現実を受け止められなくて。ばあちゃんが立ってられない状態だったから、ばあちゃん支えるのに必死だったし。おばちゃんもなんか変だった。みんなおかしかつたな。

焼き場で最後にパパの顔見た時に泣いた。ママの死に顔はすごく怖くて、たぶん苦しんだからだろうけど、パパにいつも「ママの死に顔おっかなかった」って言うってたから、パパはいつもの寝てる顔のかわいい感じであってくれたのかなって思う。

義盛 中陰中はどう思ってた？

ひかり 中陰壇のパパの写真を見るのがつらかった。写真は

あるのに現実にはいない、と思う。あとお骨があるのもしんどかったかな。

義盛 命日ってどう思ってる？

ひかり 月命日はあんまり意識してないかな。祥月命日は、前は何か前からもうすぐパパの日だと思ってたけど、今年は当日になって気づいた。だんだん薄れていってるかも。今の家に仏壇とかないから手を合わせることもないけど、その日はパパのこと思ってる。

義盛

お父さんってどんな人だった？

ひかり

ばあちゃんも暮らしてたから、パパとは1週間に1回会えるか会えないかで：でも私は好きだから、絶対嫌いになることはなかった。だってママは死んじゃってたし、パパしかいなかったから。

義盛

ひかり

パパは静かであんまりしゃべらなかつた。優しくかつたかな。自分ではいい父親じゃないって言ってたけど、そんなことはなかった。よっぱらった時はうるさかつたから、よくケンカしてたんですよ。その時に「もう一生しゃべんない」とか「早く死んじゃえばいいのに」って言っちゃったこともあって、すごく後悔した。後悔しか残らないんですよね。

義盛

ひかり

よっぱらった時はうるさかつたから、よくケンカしてたんですよ。その時に「もう一生しゃべんない」とか「早く死んじゃえばいいのに」って言っちゃったこともあって、すごく後悔した。後悔しか残らないんですよね。

義盛

そうだよ。言った本人は後悔するよね。

義盛

ひかり

パパが亡くなったのはちょうど進路を決める時期だと思っただけの影響はあった？

義盛

ひかり

パパが亡くなるまでは、地元の高校へ行く気満々でしたもん。でも、おばちゃんがパパの葬儀の時に「札幌へ一緒に行こう」って言

ってくれて「うん」って即答でした。ここを離れた方がいいかなと思って。

担任の先生に相談したら、おばちゃんの家に近い定時制の高校を探してくれて、そこへ行くことにしました。

ひかり

いや、ないです、ないです。この間の七回忌の時も、パパが今どうしてるとか話してくれただから、お寺さんと話すとなんかパパを近くに感じて、あつたかく思いました。

義盛

ひかり

高校どうだった？
めっちゃ良かった。今の旦那さんにも会えたし。昼間働いてたから授業眠かつた。

義盛

ひかり

地元離れたことは良かったかな。
良かった。より性格も明るくなった。よく笑うようになったし。あのまま地元に行ったら「なんでパパはいないんだろう」ってずっと考えちゃうと思う。
札幌にいると、パパは地元でまだ生きてるような感覚になるんです。不思議です。

義盛

ひかり

地元帰るのいやかな。
いや、大丈夫。「帰ってきたよー」って感じ。ばあちゃん一人であるのかわいそうだし。

義盛

ひかり

お寺さんに会うのいやじゃない？
お寺さんが亡くなった時のことか思い出すとかない？

お寺に嫁に来て良かったと思うことのひとつは、ご家族の様子を長い期間、時には何代かに渡って見守ることができるということだ。逆に言うと、お寺のことも皆さんに見守っていただけたということ。何かそこに温かいものを感じる。

義盛

ひかり

私なかなかひかりちゃんに会えないから、今度帰って来た時お寺に遊びに来てよ。
お寺さんにもお寺の大掃除手伝いに来てって言われるので、今度二人で行きます！

義盛

ひかり

私が妃香里ちゃんに初めて会ったのは、お寺で行われたお父さんの四十九日法要だった。自分のことを「ひっか」と言い、かわいらしくあどけない様子で、おばあちゃんやおばさんなどの周りの大人が、彼女をいかにかわいがり、大切にしているかというかがひしひしと伝わってきた。

義盛

ひかり

「札幌の定時制の高校へ行くんだってね」と声をかけると、私の顔をまっすぐにみて「はい」と答えた。

義盛

ひかり

小さい頃にお母さんを亡くし、そして自分の人生を決める大事な時期にお父さんを亡くした彼女のこれからの人生を「どうか」と願わずにはいられなかった。

(文責 義盛充香)